



豊後大野市立緒方中学校学校だより

青雲の大志

令和6年3月8日

NO.34 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

たくさんの感謝を胸に、力強く飛び立とう 第24回緒方中学校卒業式



3月2日、たくさんのご来賓のご臨席を賜り、卒業式を挙行了しました。今年度の卒業生は14名です。ユーモアと優しさで、互いのピンチを支え合い、困難を分かち合ってきた彼らにふさわしい、厳粛な中にも温かみのある式でした。

私は、何人もの1年生が別れを惜しんで涙する卒業式、来賓の方々からハンカチを取り出して涙を拭う卒業式を初めて経験しました。子どもたちの成長を実感しながら、卒業生を見送ることのできる幸せを感じた一日でした。

(写真上) 卒業生答辞(工藤穰さん・宮崎華帆さん)
最後の合唱は「卒業の唄 アリガトウは何度もいわせて」
(写真 見出し横) 号泣の学級担任(木元彩葉先生)
(写真右上) 左から 教育委員会告示(渡部稔さん) PTA会長祝辞(弓祐也さん)
在校生送辞(生徒会長宮崎悠希さん)

校長式辞

私から卒業生に一番伝えなかったこと、1・2年生にも心に留めておいてほしかった部分のみ記します。

現代は、予測不可能な時代、VUCA時代だと言われていきます。例えば、身の回りでも、急速に進む少子高齢化、新型コロナウイルスの流行や地球温暖化に伴う気候変動、異常気象、自然災害など「かつてない」という言葉が頻りに使われる、想定外のことが次々と起こっています。また、テクノロジーの急速な発展で日常生活や社会生活で求められるスキルやモラル、常識さえも日に日に変化しています。

私は、このような難しい時代にあっても、皆さんには、**幸せを感じながら主体的に生きてほしい**と願っています。そのために、心に留めておいてほしいことを2つ述べます。

1つ目は、「**学び続ける**」ということです。義務教育の課程は修了しましたが、皆さんの学びに終わりはありません。仕事に必要な資格やスキルを学ぶのはもちろんですが、こんな人になりたい、こんなライフスタイルを送りたいといった夢を見つけ、描き、その憧れに近づくための学び。人から学ぶ、書物から学ぶ、経験を通して学ぶ。たくさん学びを重ね、状況の変化に対応しながら夢の実現に向かってゆくことを期待しています。

2つ目は、「**自己評価の軸をもつ**」ということです。変化の激しい複雑な社会では、価値観も多様化しています。異なる意見にも耳を傾け、取り入れながらよりよい価値を創造することがまず、求められます。

その上で、私が大事にしてほしいと願うことは、**他の人の評価に左右されず、なりたい自分に照らし合わせて自己評価し、修正・改善していく**ことです。他の人がどんなに評価してくれても、自分が納得できないときは、修正しながらさらなる高みを目指す。たとえ、他の人から評価されなくても、気づいてもらえなくても、なりたい自分に近づいていけば、大丈夫、これでいいと自己評価できる力をもちましょう。そうでなければ、主体的には、生きてゆけません。あなたの人生を生きるのです。

そして、そのときの評価の軸としてほしいのが、「**気品と力強さ**」。この一年間、行動を考え、判断し、振り返る視点にしてほしいと言い続けてきた「気品と力強さ」です。

「気品」は、自分も人も大切に、よりよく生きようとする姿の中にあります。「力強さ」は、困難にぶつかったときにも知恵を総動員し、時には周りの人に「助けて」という勇気を持ち、なんとしてでも乗り越えようとする姿、前に進むようとする姿の中にあります。「気品と力強さ」を軸に、自分を見つめ、進む道、進み方を確かめながら歩み続けていくことを願っています。